

土岐川グリーンベルト通信 第119号

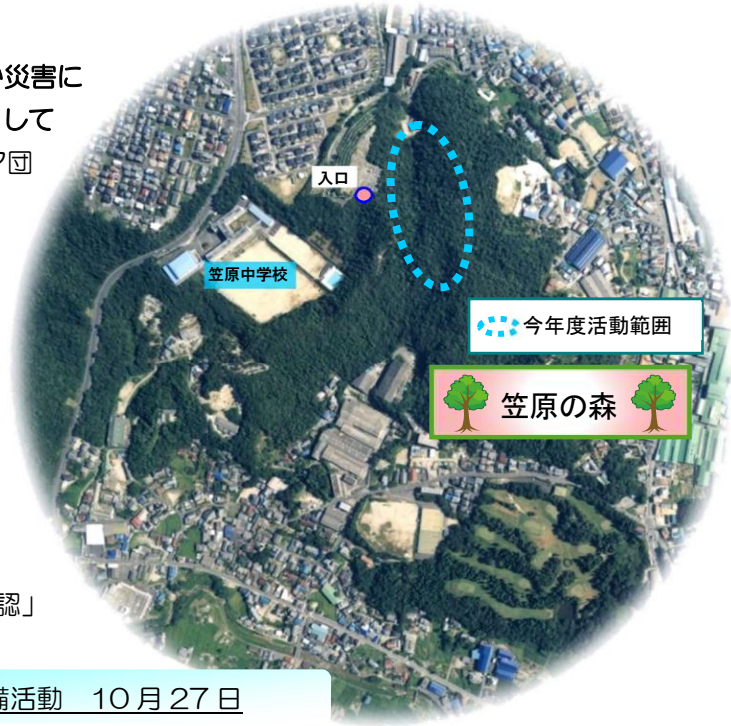
令和5年度「笠原の森」笠原中学校による活動報告

土岐川流域グリーンベルト活動とは

多治見市・土岐市の「市街地に隣接する樹林地」を「土砂災害に強く、自然環境や景観が豊かな樹林地（グリーンベルト）として保全・創出すること」を目的とし、行政機関やボランティア団体等地域と連携して活動しています。

笠原中学校での取り組み

笠原中学校の1年生62名が、ふるさとの森「笠原の森」を舞台に、土砂災害と樹木の働き、樹林整備の意義などを学び、土砂災害に強い樹林を目指した樹林整備活動に取り組みました。この活動は、多治見砂防国道事務所、多治見市、多治見さぼう・みちボランティアクラブの支援のもと実施しました。



○学習会 10月17日

屋内学習「砂防のはなし」「森のはなし」「ハザードマップの確認」
屋外学習「土石流模型実験」

○観察会 10月20日（雨天のため中止）

野外学習「砂防堰堤の見学」「土の観察」
「木の観察」「ノコギリの取扱講習」

○樹林整備活動 10月27日

野外学習「ノコギリの取扱講習」
「樹林整備（常緑低木や成長の悪い木の伐採）」

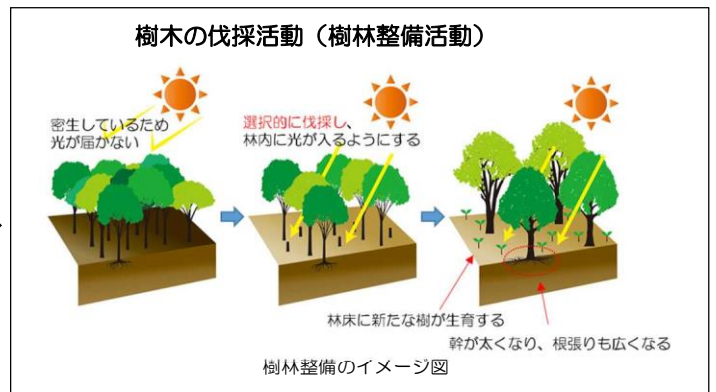
10/17 学習会（森に入る前の事前学習）

強くて豊かな樹林にするために

多治見市では、かつて陶土の採掘等によって「はげ山」が広がっていました。「はげ山」では、少しの雨で大量の「土砂」が流出し、下流域では土砂災害が頻発していました。はげ山からの土砂の流出を軽減するため実施した砂防事業等により、緑が回復しました。

しかし、現状の「笠原の森」は林床が暗く植物が芽生えにくい環境であり、斜面崩壊防止機能をはじめとした樹林が備えるさまざまな効果が期待しにくい状況となっています。

そのため、土砂災害に強い「明るい樹林づくり」に取り組んでいます。



室内学習「砂防・森のはなし」



「砂防・森のはなし」では、樹林地が荒廃していた歴史や樹林整備の必要性を学びました。

ハザードマップの活用



多治見市の職員の方から、ハザードマップの説明をしていただき、危険箇所を確認しました。

土石流模型実験



砂防堰堤によって、下流側にある家屋等への土砂災害の被害が軽減されるようすを模型実験で学びました。



10/27 樹林整備活動

樹林整備活動では、ノコギリの取扱講習(玉切り体験)をとおしてノコギリや剪定バサミの使い方を学んだあと、実際に木の伐採作業を行いました。活動前には活動支援者とともに危険予知活動を行い、装備や伐採時の注意点を確認し、ケガなく安全に活動を行うことができました。活動を通して、森の中が明るくなったことを実感するとともに、残された木がこれから大きく育つことで土砂災害を抑える効果が高くなることを学びました。

危険予知活動



ノコギリの取扱講習



活動支援者のもと伐採作業



活動支援者のもと伐採作業



伐採した木を運搬



活動支援者の皆様



〇生徒のコメント (一部抜粋)

- ・昔ははげ山だったことに驚いた。これからも緑豊かな森を守っていきたい。
- ・自分の住む地域のハザードマップを確認して、危険な場所をあらかじめ知っておくことが大切だと思った。
- ・今まで森について何も知らなかったが、実際に森を歩いたり樹林整備を体験したりして、森についてたくさんを知ることができて楽しかった。
- ・砂防堰堤や樹林整備の大切さを知ることができてよかった。
- ・森に入って木を切るなど、普段できない体験ができて楽しかった。
- ・楽しく木を切ることができたし、それによって自然を豊かにするお手伝いをしていると考えるとやりがいがあった。
- ・はじめは森や木をあまり重要だと思っていなかったが、活動を通して、災害を防ぐために森を大切にしていかなければならないこと、そのために適切な伐採を行う必要があることが分かった。

〇笠原の森グリーンベルト活動の経緯

平成12年：活動開始(講義、歩道計画、歩道整備等)

平成14年：樹林整備開始

…活動開始から今年で24年目になります。

〇過去の主な支援者

多治見市、岐阜大学、NPO 法人鎮守の森、

市之倉森づくり合同部会、

多治見さぼう・みちボランティアクラブなど

作成者・お問い合わせ先

国土交通省 中部地方整備局

多治見砂防国道事務所

砂防調査課

〒507-0023 岐阜県多治見市小田町4-8-6

TEL : (0572) 25-8024

【事務所HP】【砂防X(旧Twitter)】

